

ケンネルスチャリティーライブ

公演を待って下さるお客様

4月21日(土)、地域住民を対象として遠賀コミュニティ・センターで行われ、博多支部より3人が参加しました。

♪天使の誘惑、♪世界の国からこんにちは、の2曲でライブを行いました。会場の皆さんが笑顔でしっかり動かれるので、私の方がその迫力に圧倒されました。特に村上さんがリードされた時の声かけが素晴らしく、会場の皆様の心を確りと掴んでいました。

帰りにお客さまから、今回はいつもの男性の方がいなかったネ、と声をかけられ、いつも参加して下さる上に、メンバーのことに気づいて下さったことに感謝でした。

博多支部

仲里 あぐり



生涯現役

どおでもうまで頑張ります!



南福岡支部 廣松 絢子さん

(ご紹介) 大川市の中学校の体育の先生を33年勤務し、その後幼稚園園長を6年。教えるはもとより市内には幅広い人脈を持ち、活動の幅は広い。現在77歳



長男が福岡市の板付に住んでいて、その家の近くの魚の加工センターに、「いくら丼」とか「さざえのつぼ焼き」などを食べに行くのを楽しみにしております。又、今度の日曜日にえびなど食べに行こうねと約束しています。

ケアビクスでは、去る2月9日(金)、『大川市いきいき健康づくりセミナー』が大川市連合婦人会と大川市健康を守る婦人の会合同で行われ、講師としてケアビクスを行って来ました。「ケアビクスは心とからだの健康づくり、老化していくからだをケアする有酸素運動です。間違ってもかまいません、楽しみながらやってみて下さい」とお伝えし、準備運動、主運動の後、2曲(サザエさん、リンゴの唄)を行ない、整理運動で終わりました。

会場に120名程の方が参加しておられ、その雰囲気から、皆様によるこんでいただくことが出来たように感じました。

この新コーナーでは会員のいろんなお話でオレンジ(ケアビクス)の絆をバトンで繋いでゆきます。

博多支部 佐々木 裕志さん

ふれあい通信の記事を依頼されたきっかけは、4月に行われた第9回ケアビクス連盟研修大会の懇親会で「熱く」

語ったことから・・・ん?そんなに語った?まゝそれも自分らしい(笑)。前置きはこれぐらいで。私は佐賀県にある友朋会 嬉野温泉病院で作業療法士として勤務し15年目です。3年前までは転勤先の認知症デイケアで働いていた為、戻ってから認知症分野での訪問支援や認知症カフェの立ち上げに携わってきました。

認知症カフェは、認知症の人やご家族、地域の人、専門職が気軽に集い語り合いながら過ごせる場所です。そこでは、新しい出会いや仲間作りの場、認知症に関して学ぶ機会があり、何より不安や悩みを安心して話せる人がいます。



私は、「繋がり」の可能性がたくさんあった場が認知症カフェだと思っています。超高齢化社会において認知症は、誰でもなる可能性がありまゝ。認めたたくない思い、不安、偏見などまだまだ地域で安心して暮らせる社会を作るにはクリアしていかないといけない部分は多いですが、気軽に自身を表現し受け入れてくれる居場所が、近くにあればいいな〜と思いませんか?

最後に、今までも、これからも、ケアビクスが発展し続ける事!...と同じように、自分自身も成長し続けたいと思っています。皆さん、今後ともよろしくお願い致します。次は山口支部 水野佳代子さんにバトンをお渡します。